



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

第8号

発行日 平成21年6月5日

〒960-1295 福島市光が丘1番地/TEL (024) 547-1111(代) ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

患者さんとそのご家族の皆様へ —患者さんを中心とした安全な医療の確立を目指して—



医療安全管理部部長 **橋本 重厚**

全国的な医療事故頻発を受け、特定機能病院・臨床研修病院に安全管理部門並びに安全管理者の設置が義務付けられ、平成15年4月福島県立医科大学附属病院でも私どもの医療安全管理部が誕生しました。

私どもの目標は患者さん並びにその家族を中心とした安全な医療を確立することです。そのため、私たちは日々中立的な立場で医療行為を観察し、検証しています。職員全体から自主的に事故につながりかねないヒヤリ・ハット事例を報告してもらい、これを解析

して大きな医療事故を起こさないように防止策を立てています。また不幸にして医療事故が生じた場合、外部から中立的な立場の専門家を招聘し、院内全体から委員を選抜し、より公平で客観的にあらゆる事故の要因を探り出し、同じような事故を繰り返さないよう病院の医療体制の抜本的な改善を継続的に行っています。また専門的な知識を有する医療メディエーターを育成し、患者さんが医療の内容に疑問や不満を持った時、中立的な立場で患者さんのお話をお聞きし、ともに協力して問題を解決するよう努めています。

安全でよりよい医療は、医療者だけで出来上がるものではなく、患者さんの建設的な参加があって初めて可能になるのです。受け身の医療ではなく、医療者と患者さんとその家族がともに手を携えて病氣と闘い、よりよい医療を構築していこうではありませんか。

新しいリハビリテーションセンターについて

リハビリテーションセンター 部長 **矢吹 省司**

第8号のなかみ

- 2ページ・・・ ○低侵襲・先端治療科ってなんですか？
○こんにちは 地域・家庭医療部です
○病気のまま知識「“うつ”と睡眠障害とお日さま」
- 3ページ・・・ ○はじめまして！新規採用になりました
○「さいてください 院長さん」投書箱から
○福島県立医科大学「おさんぽマップ」ができました
- 4ページ・・・ ○栄養士からアドバイス
—旬の野菜を取り入れて、
栄養バランスアップの一品を食卓に！—
○「ドクターヘリ運航スタッフ」です
○病院ボランティア「けやきの会」りれー通信 6

2008年9月から始まった「新棟建設」と「従来施設拡大」の工事が予定通り終了し、2009年4月1日に新たなリハビリテーションセンターとしてスタートを切ることができました。

新リハビリテーションセンターでは、心大血管リハビリテーションが始まり、心臓の手術後や心筋梗塞後のリハビリが安全に行われるようになりました(写真)。また、作業療法士を初めて採用し、いろいろな器具を用いた作業訓練も行えるようになりました。言語聴覚室も2室できました。今年度は、リハビリ・スタッフを増員することができ、現在総勢12名の医療技師がいます。主に急性期の入院患者さんに対して、より高度で密度の濃いリハビリテーションを行っていただけるものと思っております。リハビリテーションセンターのスタッフ一同、患者さんの早期回復のために頑張っていきます。よろしくお願い致します。



清潔と快適をクリエイトする。



病衣・付添寝具

〔ご利用・お問合わせ先〕

株式会社 同仁社
医大リネン室

電話 024-547-1111
内線 3081

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店(エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店(福利厚生棟内)

低侵襲・先端治療科ってなんですか？

低侵襲・先端治療科 小山 善久

消化器内科と従来の低侵襲・最先端治療科（この前身は消化器外科Ⅱ）とのコラボレーションとして今までの概念を覆す診療科として平成21年4月に移行・発足しました。内科、外科の壁を取り払い、診断から治療へのスムーズな移行を可能にし、随時新しい治療を加えた個別化治療を目指しています。従来ありがちな検査待ち、手術待ちの時間を短縮し、患者さん個人にあわせた侵襲（体に負担がかかる切開・切除や薬の投与など）の少ない、先端の医療をその病態を加味しながら、診断と治療計画を立てて行います。たとえば胃が

んの患者さんがいるとします。胃カメラで診断します。そして早期であれば胃カメラで取れます。少し進行していれば内視鏡手術で切除でき、早期に退院できます。もっと進行していれば従来の開腹手術を行います。さらに進行し手術ができない場合には化学療法などの保存的治療を行い、場合によっては新しい治療薬を使います。これらすべてがこの科でできるということです。対象になる疾患は主に消化器一般で、食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸肛門疾患、肝疾患、胆道疾患、膵疾患、脾疾患や遺伝性疾患など多岐にわたります。スタッフ一同、『診断から治療まで』を合い言葉に患者さんの負担軽減、最新治療の提供を行うため日々診療を行ってまいります。

こんにちは 地域・家庭医療部です

地域・家庭医療部は、平成18年3月に新設された部門で、県内にひろがる複数の地域を拠点として、専門医としての家庭医を養成しています。現在の診療・教育の拠点は、保原中央クリニック（伊達市）、三春町立三春病院、只見町国民健康保険朝日診療所、かしま病院（いわき市）を中心に、相馬市、国見町、福島市、郡山市、会津若松市、三島町、金山町、南会津町へもひろがっています。

医大病院をはじめとする大きな病院でより高度な専門的医療が集中して行われるためには、よくある病気や健康の問題が、地域で安全かつ効率良くケアされる必要があります。そのためには、質の高い家庭医がみなさんの身近にいと良いとされています。家庭医は、健康問題や病気の8割を占める「日常よく遭遇する状態」には自ら適切にケアすることができ、それ以外の状態では、各科専門医やケアに関わる人々と連携し、患者さんの気持ち、ご家族の事情、地域の特性に応じて、「患者中心の医療」を実践できる専門医です。

このような専門医としての家庭医の養成が、実は日本ではとても遅れているのです。福島医大は、全国の医大に先駆けて家庭医の養

成に取り組んでいます。ご声援をいただければ幸いです。地域・家庭医療部のホームページは、<http://www.fmu.ac.jp/home/comfam/> です。ご意見ご質問は、comfam@fmu.ac.jp へお寄せ下さい。



病気のまめ知識

「うつ」と睡眠障害とお日さま」

神経精神医学講座 矢部 博興

「うつ病」という言葉が巷に溢れ、「うつ病が増えている」という言葉が良く聞かれます。それに応じて、この人とあの人が同じうつ病なの？と性格や元気さも異なるうつ病の患者さんを見て驚くことも多くなったと思います。実は、うつ病概念が拡大し混乱していることも、うつ病増加と捉えられる要因の一つです。この混乱の収束にはまだまだ時間がかかると思われます。今、精神医学は科学的な医療を目指して、現象、つまり症状の種類や数を重視する方向に向かっているのでこのようなことが起こるのです。それで最近では「うつ病」は診断名だけに使い、その他は「抑うつ（気分）」をあてましょうという考え方が主流となりつつあります。

ところで、悲しい別れや失敗などを経験した時に我々には睡眠障害や気分の落ち込み、抑うつ気分が生じます。軽

いものでしたら、実は意外に知られていない対処法があります。それは、お日さまです。睡眠覚醒リズムの最大の調節因子は太陽光です。歩行や体力の問題で散歩ができなくても、毎朝必ず決まった時間にカーテンを開けて遠くの山並みを数分間見て間接光を目に入れることを一週間ほど繰り返しますと睡眠覚醒リズムが戻りますし、(季節性うつ病の治療で良く知られていることですが) 光の抗うつ作用も期待できるのです。ただしこの際、昼寝は避けるか、決まった時間にしてください。この方法は、認知症に伴う不眠、幻覚や興奮（夜間せん妄）にも有効ですので、お試しください。



お知らせ

医学部管弦楽団によるサマーコンサートが下記日程で開催されます。お立ち寄りの際はどうぞご覧ください。

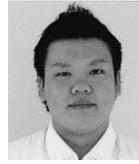
- 日時 平成21年7月4日(土) 16時から17時30分
- 場所 病院玄関ホール

はじめまして! 新規採用になりました ★今年の新規採用者のうち6名に抱負を聞きました



後期研修医 **羽田 謙太郎**

2年間の初期研修を終え、4月から小児科医として当院での後期研修を行っています。忙しいながらも子供たちの笑顔に支えられて日々楽しく仕事をしております。小児科は取り扱う疾患が非常に多岐にわたり、学ばなければならないことも多いですが、日々精進を重ね経験を積むことで、患者さんやそのご家族から信頼される小児科医に一日も早くなれるよう頑張ります。これからどうぞよろしくお願いいたします。



看護部 **三浦 貴裕**

私は循環器病棟の看護師として働き始めました。メモ帳がいくらあっても足りません。大学時代は教科書から学ぶことが全てであると思込んでいました。しかしいざ実践の場に足を踏み入れると、師長を始め先輩方の姿を見て学ぶことの多さ、また何より患者さんの言葉や表情、仕草などから学び吸収することがとても多いことに驚きました。同時にそのことに対して日々楽しさを感じています。人並み以上に早く仕事を覚えることはできませんが、教えていただいたことを確実に自分のものとし、皆さんから頼られる男性看護師になれるよう精進して参ります。よろしくお願いいたします。



放射線部 **田代 雅実**

放射線技師として10年目の春を迎えました。忙しい中あつと言う間に20代が過ぎてしまいましたが、いまだに勉強の日々が続いております。先輩方の指導を受けながら「まだまだだな」と思いつつ、ゆっくりではありますが成長している自分を感じる事が出来ています。患者さんに最善の医療を提供出来るように技術はもとより、接遇においてもっと研鑽したいと思います。これからどうぞ宜しくお願い致します。



検査部 **渡邊 美菜子**

私は、検査部微生物検査室に配属され2ヶ月が経とうとしています。今は、先輩からの教を一つ一つきちんと身につけ、正確で迅速な検査ができるよう勉強の毎日です。まだまだ未熟者ですが、検査の仕事に真摯に向き合い患者さんや多くの医療スタッフからの期待に応えられる検査技師に一日でも早くなれるよう精一杯頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



薬剤部 **菅野 真代**

4月1日の配属から、あつという間に2ヶ月が過ぎようとしています。現在は、地下の薬剤部で調剤業務の修行中です。毎日たくさんの事を教えて頂き、悪戦苦闘しながらも頑張っていますが、まだまだ戦力とは言えません。これからますます貪欲に様々な事を学び、誰からも信頼され、患者さんとも真摯に向き合える薬剤師になれるように日々前進していきたいです。どうぞよろしくお願い致します。



医事課 **野口 紘史**

4月1日より病院業務係に配属となり2ヶ月、特定機能病院という先進かつ高度な医療を提供、研究する大学病院に勤務でき大変うれしく思うと同時に、その使命感を実感している毎日です。私が勤務する病院業務係は、ご来院された患者さんの受付や会計を主に担当する部署です。また、医業収入に大きく係わる保険請求という重要な業務も行ってあります。大学病院が持つ様々な役割の推進と多くの患者さん、医療専門職者の支えとなれる事務員として、日々誠心誠意取り組んで参りたいと思います。宜しくお願い致します。

「きいてください 院長さん」投書箱から



「きいてください 院長さん」には駐車場に関する投書が多く寄せられています。

特に、身体障がい者用の駐車場がいつも満車状態で利用できないというご意見が多くありましたので、3月に2台分増設いたしました。この身体障がい者用駐車場は身体障がい者の方が自ら運転して受診される方

のために整備しているものです。まだ、不十分であるとは思いますが、身体障がい者の方がスムーズに受診できるよう皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

また、歩行が困難な方のために思いやり駐車場を設置しています。この駐車場を利用するためには、守衛室に申込を行う必要がありますので、利用を希望する方は守衛室まで申し出てください。

また、病院内部が分かりにくく、迷子になってしまうというご意見が多く寄せられておりました。複雑になった病院内を分かりやすく、迷わず案内できるよう案内表示の改修を行いました。病院内の案内図も増やし、現在位置がすぐわかるよう配慮いたしました。

今後とも分かりやすい案内表示を目指して、改善を行ってまいりますので、忌憚のないご意見をお願いいたします。

福島県立「おさんぽマップ」ができました

医科大学・病院の敷地内にある様々な木々や草花、彫刻作品などをご紹介します「おさんぽマップ」をこの度作成しました。表面は花や紅葉を楽しめる植物と彫刻などの場所を示したカラーのイラスト地図、裏面は植物の名前の由来や特徴などを記した一口メモと開花時期をまとめた一覧表になっています。お散歩やミニ森林浴を楽しんでいただくために、また、ちょっとした読み物としてお使いいただければと思います。マップは玄関ホール・共同待合室のチラシコーナーにございますのでご自由にお取りください。なお、本学は丘の上であり、ところどころに坂道や階段がございます。お散歩の際にはどうぞゆっくりと無理のないペースでお出かけください。



**栄養士から
アドバイス** 旬の野菜を取り入れて、
栄養バランスアップの一品を食卓に!

気温が少しずつ高くなり紫陽花が色づく頃、梅雨に入ります。長雨や蒸し暑さなど、不安定な天候で体調を崩しやすい時期ですが、規則正しい生活のリズムやバランスの良い食事、十分な睡眠を心がけ、毎日を健康に過ごしましょう。

この季節が旬の食べ物に、さやえんどうがあります。さやえんどうは別名を絹さやといい、えんどうの若ざやを食べる緑黄色野菜です。

さやえんどうに豊富に含まれるカロテンには、皮膚や粘膜を強くしたり、免疫を強めて風邪を予防する働きがあると言われています。カロテンは油と一緒に調理すると吸収が高まるので、良質な油を含んでいるごまと一緒に取ると効果的です。



さやえんどうのごまだれ和え

- ① さやえんどうは筋を取り、熱湯でさっとゆで、手早く冷水にとって水気をきる。斜め半分に切る。
- ② 鶏ささみは酒を振り、電子レンジで5分程度（火が通るまで）加熱し、細かく手で裂いておく。
- ③ すりごまと、だし汁、砂糖、しょうゆを加えて作ったごまだれで、さやえんどうと鶏ささみを和える。さやえんどうとごまの組み合わせでカロテンの吸収を高め、鶏ささみの良質なタンパク質で栄養のバランスを整えるおかずです。ぜひ一度作ってみてください。

「ドクターヘリ運航スタッフ」です

福島県ドクターヘリの運航を担当している「中日本航空」です。ドクターヘリは現在、16道府県18箇所で開催されており、当社は福島県を含む6箇所を担当しています。運航スタッフは操縦士、整備士、そしてCSと呼ばれる運航管理者の3名が1チームとなり、365日休むことなく、交代で待機し出動に備えています。

操縦士と整備士はヘリポート内の事務所で待機し、要請を受けると3分程度で離陸準備を完了させます。当社が使用している機材は「EC135」と呼ばれるヨーロッパ製の小型ヘリコプターで、操縦士、整備士、医師、看護師、患者さん等、最大6名の搭乗が可能です。機内にはストレッチャー1台と多くの医療機器が備え付けられています。

一方、病院1階の救命救急センターに隣接する通信センターにはCSが待機し、出動要請のホットラインが入ると、関係するスタッフに対し一斉に出動指示を出します。出動中は情報の収集と伝達、関係機関との調整、ドクターヘリの運航監視等フライト全体のコーディネートを行い、円滑な救命活動が行えるよう支援業務を行っています。私達スタッフの大切な使命は、ドクターヘリを安全に運航すること



ですが、それは県民の皆様や関係機関の方々のご理解とご協力の下に成り立っているものです。今後もドクターヘリの安全運航に努めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

病院ボランティア「けやきの会」 りれー通信 6

「人」と向きあう緊張 箭内 照代

後期高齢者医療制度の是非は別として、過去が長く未来が短かくなって来た現実に、年齢・体力・気力・資格及び職歴等を考慮し、病院ボランティアに参画して一年半余。

「病院」という特殊な環境で、老若男女が肉体及び精神に疾患を負いながら、日々不安の募る今日の社会で、病と闘うに当り、時には他人の「サポート」を必要としております。そんな場に直面した時、瞬時に患者さんの「ニーズ」を察知し、心配りを忘れずに、学び得た知識と習得した経験的技術をもって「援助」

出来ればと、常に自分を叱咤激励し、更に自身の向上の為に信念信仰を深めつつ、ある時は専門家の指導を受け今日に至っております。「ボランティアはタダ（無償性）だから遊んでいてもいいんだらう！」と厳しい忠告を受ける度に、反省すべき課題の一つです。ボランティアのネームカードとエプロンを着用した時点で、自分の行動の限界を知り、責任を明らかにして行く力を培いつつ、健康の許す範囲で、今後もボランティア活動への継続的参加を望むところです。



ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間：平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやパストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

